



岩ツツジ

**特定健診の受診率(法定報告値)**

年度	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
平成24年度	999	540	54.1
平成25年度	992	524	52.8
平成26年度	966	517	53.5
平成27年度	939	516	55.0
平成28年度	897	476	53.1

**収納率**

年度	収納率(%)	
	現年分	滞納分
平成24年度	96.47	23.31
平成25年度	96.85	28.92
平成26年度	97.51	36.74
平成27年度	97.84	21.99
平成28年度	98.83	24.48



チャレンジデー

先ほども記述したとおり、本町の一人あたりの保険料は、県平均を大きく下回っていることから、平成30年度の広域化に伴い、おそらく保険料の値上げは避けられないのではないかと考えられます。県当局におかれましては、納付金及び標準保険料率の算定には、医療費水準の地域差の反映や激変緩和措置等による制度を最大限に活用していただき、被保険者の負担増を最小限に抑えることができるよう、ご配慮をお願いしたいと思います。

我々は、国民皆保険の最後の砦である国民健康保険制度が持続可能であるために、この広域化が最善の策であることを信じて、肅々と広域化に向けた準備を進めてまいりたいと考えております。

当町の国保加入者数は、平成28年度平均で1194人、総人口に対して29.4%、加入世帯数は705世帯で全世帯に占める割合は48.1%であり、人口減少に比例して加入者の減少が続いています。しかし、医療費は加入者数の減少割合に比べ微減となっていることから、県内の多くの市町村と同じように、被保険者一人あたりの医療費が年々増加しています。こうした中で、当町の一人あたりの保険料は7万6977円と県平均の9万9970円を大きく下回っており、平成12年の介護保険施行時に保険料の値上げを実施して以来、17

**県下でも低い保険税額**

年間値上げを行っていない状況であります。これは、歳入に占める割合が保険料の14.0%に対して前期高齢者交付金が26.2%と非常に大きくなっていることが、保険料の据え置きを可能にしてきた要因であるのではないかと考えられます。

しかしながら、平成27年度と平成28年度の2年間は、基金を取り崩して対応するなど非常に厳しい財政状況となっております。

**特定健診結果相談会の実施とチャレンジデーへの参加**

当町のような小さな自治体では、高額な医療費を必要とされる被保険

者が一人増えるだけで、国保財政を圧迫してしまうことから、病気の重症化予防に重点を置いており、健診結果の良し悪しにかかわらず特定健診の受診者全員に対して、健診結果を本人にお返しする時に、健診結果相談会として保健師や管理栄養士から助言・指導を行っています。

また、昨年度から町民の健康寿命の延伸を目指し、日々の暮らしの中で運動をするきっかけづくりを目的に、住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」への参加を始めた。これは、毎年5月の最終水曜日の午前0時から午後9時までの間で、15分以上の身体運動を実施し、その参加率を同程度の人口規模の市町村同士(二対二)が競い合うイベント

**広域化が持続可能な国民健康保険制度になると信じて**

当町は、初参戦の昨年は勝利を飾りましたが、今年は大差をつけられて敗れ、対戦成績が一勝一敗となりました。来年は勝利を目指し、生活の中での運動習慣の意識付けに向け、さらなる周知に努めていきたいと考えています。

濃飛きた・みなみ  
保険者シリーズ  
緑と清流の里 ひちそう  
**七宗町**

七宗町は、四方を町の90%を占める

山林に囲まれ、四季折々に変化する

美しい自然の中で生活を営む、

都会にはない優れた自然環境を有するまちです。

住みたい  
訪れたい  
ひちそう  
帰りたい  
美しいまち

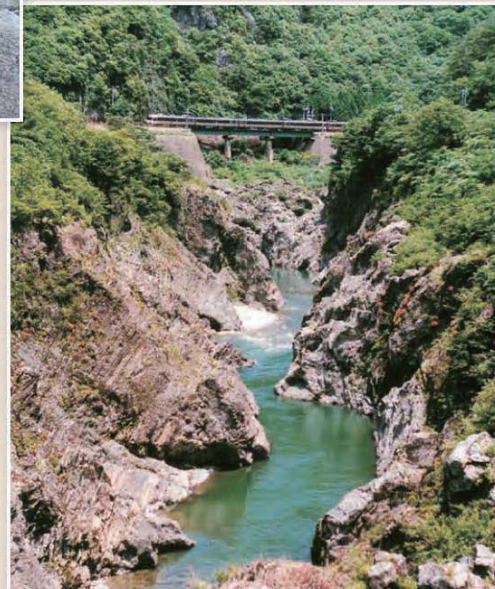
七宗町は、岐阜県の中南部に位置し、町域面積のほぼ9割を標高200mから700mの山林が占め、町内を東から西に流れる飛騨川と、北から南に流れる神瀬川に沿って、住居が点在する中山間地域の町です。白川町からの約12kmの飛騨川は、飛騨木曾川国定公園に指定されており、特に飛水峡と呼ばれる風光明媚な峡谷には、国の天然記念物の甌穴(ポットホール)群があり、その数800個といわれています。6月上旬ごろには、岩ツツジが咲き乱れ、



太公望

飛水峡に彩りを添え、より一層美しく見せてくれます。また、神瀬川とその支流ではホテルの乱舞、鮎の友釣りシーズンには、多くの太公望が訪れ、にぎわいを見せてくれます。

一方、人口は本年4月1日時点で、3988人と、4000人を割り込んでいます。県内では3番目に人口の少ない自治体で、高齢化率は42.58%と非常に高く、若年層の人口減対策が急務となっております。



飛水峡

**スローガンは「まごころ あいさつ親切対応」**

昨年、「住みたい 帰りたい 訪れたい 美しいまち ひちそう」を基本コンセプトに第五次総合計画を策定し、住環境の整備、子育て支援の充実、学校・地域教育の充実、観光の振興を重点施策として推し進めています。

本町では、国保業務のうち保険料の賦課徴収業務を税務課、その他の業務を住民課が担当しています。住民課には、保険・福祉・健康の各係と地域包括支援センターがあり、まさに人の生命の始まりから終わりま



住民課



ポットホール

でをサポートする、幅広い業務を行っています。このため、臨時職員等を含め総勢20人の大所帯となっております。

高齢化が著しく進む本町では、小さな町だからこそ出来るきめ細かな行政サービスを目指し、職員一人一人がプロの行政マンとしての自覚を持ち、スローガンである「まごころ あいさつ親切対応」に心掛け、住民の皆さまの暮らしを支える一翼を担っています。